

新聞記事紹介

米澤新聞 2019年9月14日付

毎日新聞 2019年9月20日付

山形新聞 2019年9月23日付

(日刊)

2019年(令和元年)9月14日(土曜日)

我妻榮氏の功績児童に

米沢 副読本増刷、小学5年生に配布



敬愛を蒙った民法学者

我妻 榮先生



米沢市立中央三丁目小学校の児童ら

米沢市中央三丁目の我妻榮記念館(矢尾板操館長)はこのほど、平成24年に制作した副読本「故郷を愛した民法学者」我妻榮先生」を増刷し、市内18小学校の5年生730

人に配布している。記念館では「郷土の偉人我妻先生を知ってもらい、将来を担う人材に育ってもらえたら嬉しい」と話している。我妻氏(1897～1973年)は、鉄砲

町(現・中央三丁目)出身の民法学者。民法学の権威で法曹界の発展に寄与し、1964年に文化勲章を受章した。米沢市の名誉市民でもある。同記念館は、米沢有為会が創立100周年記念事業として1992年に開館。2012年に開館20周年事業として副読本2千部作り、市内の小

学5、6年生に配布していた。将来を担う小学生に郷土の偉人の功績を知ってもらおうと、今回増刷を決めた。副読本は、A5判カラー1刷り、我妻氏の生い立ちから晩年の功績までを16ページにわた

このほど関根小学校(太田和広校長)で行われた贈呈式。写真には、5年生児童らが出席。矢尾板館長が児童たちに副読本

を手渡した。戸屋絆君(10)は「我妻先生は民法をつくり文化勲章をもらった素晴らしい人だと思った。そして恩師や故郷も愛している人だと分かりました。自分たちも故郷を

愛し、たくさん勉強したい」と話していた。同記念館では、校長会などを通して市内全小学校の5年生に副読本を配布していく。今後も毎年5年生に配布する計画だ。

米澤新聞
2019年9月14日付

米沢の偉人知って

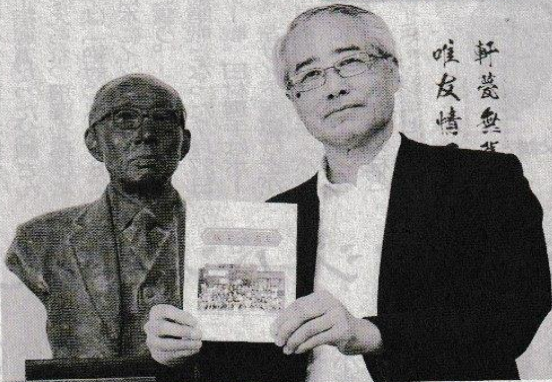
民法学者 我妻栄の副読本配布

小5全員に

米沢市で、同市出身の民法学者、我妻栄(1897~1973年)の半生をまとめた副読本が小学生に配られている。同市の我妻栄記念館が、将来を担う児童に郷里の偉人を知ってもらおうと取り組んでいる。

タイトルは「故郷を愛した民法学者 我妻栄先生」。A6判、カラー刷り16ページで、配布対象は市内の5年生全員730人。市は今年度予算に「我妻栄記念館管理運営補助金(200万円)を盛り込み、記念館を運営する米沢有為会米沢支部が配布を決めた。終戦直後、民法改正

の審議会委員として奮闘し、戦前の「家制度」に関する法律を継続するなら辞任すると法相に申し入れたエピソードや、文化勲章の受賞を小学校時代の恩師に真っ先に伝えるため米沢に帰郷した人柄などを紹介。最高裁判所長



我妻栄の銅像の前で副読本を手にする矢尾板操館長
— 米沢市で

官になる推薦を断り、「民法の研究を続けていくことが自分が国に尽くす道」と述べて民法体系書の完成に後半生をささげたことも書かれている。矢尾板操館長は「法律の分野に大きな足跡を残した業績と、故郷を愛した誠実な人柄を米沢の子どもたちに知ってもらいたい」と話している。【佐藤良一】

毎日新聞
2019年9月20日付

我妻栄をずっと学んで

米沢 米沢市出身
の民法学者我妻栄（1897～1973年）の功績を子どもたちに知ってもらおうと、同市の我妻栄記念館（矢尾板操館長）は本年度から、市内の小学5年生全員を対象に我妻を紹介した冊子を毎年配布する。

矢尾板館長は「継続的に行うことで、子どもたちが我妻栄について学ぶことを文化にしたい」と話す。

◇ 冊子は、同館を運営する米沢有為会（大滝則忠会長）が2012年に開館20周年を記念して作製した。タイトルは「故郷を愛した民法学者我妻栄先生」で、米沢で育った子ども時代や民法研究の

地元出身の民法学者、功績紹介冊子



功績などを紹介している。A5判16ページ。

12年には市内の小学5、6年生に配布したが、

記念館 小5全員に毎年配布

を配る。教師用などを含め、千冊を増刷した。

11日に関根小（太田和広校長、32人）で贈呈式があり、矢尾板館長が5年生4人にそれぞれ冊子を手渡した。佐藤美彩さん（11）は冊子をめくりながら「この本を読んで我妻栄について知りたいです」。矢尾板館長は「人柄も素晴らしい人だった。子どもたちにもっと知ってもらいたい」と話した。

子どもたちに我妻栄の冊子を贈る矢尾板操館長（左）

米沢市・関根小

（阿久津誠）

継続的に子どもたちに学んでもらいたいと、冊子を再度活用することを決めた。市からの運営補助金を使うことで継続的に実施し、今年市内18校の5年生向けに730部